

観光農園の販売強化を支援

愛媛県西条市 (株)PENTA FARM

【愛媛支局】西条市丹原町の11戸の観光農園で構成する「丹原もぎたて倶楽部」では、各農園の課題を解決するため、業務を受託する「株式会社PENTA FARM」を2012年4月に設立。現在の総農地面積は3畝で、柿100畝、レモン60畝、クリ40畝、イチジク20畝、ミカン30畝などを栽培する。観光農園のバックアップは、同社代表取締役の山内政志さん(60)を中心に、園地管理、移動販売、果物の加工、農産物の配送、移住者のサポートなどに取り組む。「SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)事業」を活用するなど新たな挑戦を続けている。

四国初のSIB事業を活用

同社では「みんなが楽しく、農業をやり続けられる環境づくり」を目標に事業を展開する。直営のカフェでは、季節のフルーツを使ったスムージーやパフェなどを提供。キッチンカーと連動し、商品の販売を通して観光農園や地元の農産物のPRも行う。「ジュースやソフトクリームは、旬の果物を利用することで季節限定とし、飽きることがないように工夫しています」と山内さん。



「新たな挑戦を続けます」と山内さん

果物の収穫期には、取材を受けることが多く、収穫の様子から加工、提供に至るまで紹介できることが強みだという。

18年には新たな挑戦として、四国初のSIB事業を活用し、「完熟果物ソース」を商品化するプロジェクトを実施した。販売ロスや規格外で破棄される果物を買取り加工し、商品化することで販売と雇用拡大を目指した。

SIBは官民協働の仕組みで、行政や民間事業者、資金提供者などが連携し、社会課題の解決を目指す成果志向の取り組みだ。西条市版SIBは、個人などから出資を募り、地域課題の

解決に役立つ事業を実施する。

出資を受けた事業者は、事業の進捗状況の報告や成果発表を行うなど、出資者とのつながりを持つ。出資者は、自らの出資で完成した商品を購入したり、周囲へ情報を拡散したりするなど、継続的な交流も生まれている。

厳しい出荷基準に対応

同社では台湾の高級スーパーへの出荷、大阪で開催されるアグリフードEXPOへの出展など、販路の拡大にも取り組む。「台湾への出荷は、台湾の防除指針に合わせた栽培方法や傷みを防ぐ念入りの包装、厳しい出荷基準などへの対応が必要ですが、販売単価が日本の2〜3倍で取引されるなどリターンも大きいです」と山内さん。

今後は台湾への輸出用に新たにハウスを設置し、イチジクとブドウを栽培する計画だという。JA周桑の産直市「周ちゃん広場」で販売されている完熟果物のソースは、ギフト向けとしても売り出し、今後はふるさと納税の返礼品として展開することを目標としている。(北須賀那由多)



キッチンカーでの販売を通じてPR



SIB事業を活用し商品化した完熟果物ソース